

平成 30 年度 第 3 回川口市美術館建設基本構想・基本計画審議会 会議録

日時 平成 30 年 11 月 28 日（水）15 時 00 分～16 時 20 分

場所 川口市議会第 3 委員会室

出席者（委員） 利根会長 増田副会長 岩崎委員 野口委員 原田委員  
飯田委員 寺久保委員 吉岡委員 後藤委員  
鈴木委員 布施委員 山下委員

岡村アドバイザー

（事務局） 古澤生涯学習部長 森岡文化推進室長 青木館長  
立花室長補佐 秋田主任 保坂主事

（運営支援） 丹青研究所 大木 外山

議事録

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

議題（1）参考事例調査の結果報告

【質疑応答】

（委員） 調査対象 18 館のうち 11 館を観てきた。建築が専門のため、建築的な配慮等についてメモを作成し、事務局に提供する。

（委員） 議論が進むと事業活動の話になる。できれば、次のステップで各美術館の事業内容、年間の収支を知りたい。

（委員） 富山市ガラス美術館は、図書館との併設による相乗効果が出ていると思われる。そういった併設機能に関する情報についても提供して欲しい。なお、施設規模により美術館としてできることが違ってくるので、規模を軸に情報を整理するとよい。  
また、事務局が想定している施設の規模を伺いたい。

（事務局） 建設規模や候補地は、基本コンセプトをまとめた後に検討するが、市有地の活用を想定している。基本コンセプト策定後に候補地調査を行い、来年度以降の報告を予定している。

## 議題（２）川口市美術館のめざす姿（案）

### 【質疑応答】

#### ①川口市美術館のテーマ「川口の美」

（委員） 「幅広い美術領域」と考えると、デジタルアートや民俗学的イラスト等も入る。川口には、SKIP シティやメディアセブンなどデジタルアートに近いことのできるインフラが整っている。それらも含むのかどうかを明確にしておきたい。

また、「川口の風景」という言葉が出てくる。市が安行の植木を主体とした文化的景観について調査を始めたときいているが、それも扱うのかどうかを明確にして、アトリアとの住み分けを考えてはどうか。

国の有形登録文化財の指定を受けている旧田中家住宅も一つの空間・機能として位置付け、どう扱うかを検討する必要があるのではないか。

川口には様々な施設があるので、活用施設の範囲を拡げて、美術館の施設機能を絞り込むとよいのではないか。

（委員） 前回の審議会では、美術館を「産業」に結びつけて、広げるという話があった。それは多くの美術館が今後抱えていかざるを得ない問題でもあり、美術館から新産業、ものづくりを発信していく筋道をこの中に盛り込むべきと考える。例えば、鋳物と植木をモニュメントなどに採り入れるなど。イメージとしては、屋上に緑化庭園を設け、そこに設置するようなもの。川口では、過去に「二人のクロード展」を開催したが、川口が先鞭をつけた、日本の歴史上大事な人物を取り上げるというのもある。日本の場合、美術館の美が生活に入っていない。展示だけでなく、居住空間のようなところから、庭園が見え、講演会や会議、小さなコンサートなどに利用できるというのも良いと思う。白クロスではなく、絵が映えるような床や照明を備え、鑑賞するというより、ゆっくり座って、作品とともに居るような感覚が得られる感じにすると、美術館としてもあまりないタイプとなるのではないか。新産業については、立ち寄りやすい下の階層の部屋でお祭りのように派手に扱うなど、3層ぐらいの構成が良いと思う。神社仏閣も表の参道はお祭りをするなど賑やかな場であり、その奥に本殿、奥之院があつて、裏に山があるという構成となっている。日本の伝統的な3点構成が、市民の感性を刺激しやすいのではないか。そういう特長を持たせれば、この先半世紀くらいは良いモデルになるのではないかと妄想している。

- (会長) 最初からそれありきではなく、まずはコンセプトがあってその延長線上に可能であれば検討するという話である。
- (委員) 美術館とアトリアの役割分担について、この案では市民の美術活動の発表の場をアトリアと考えているが、これを中心にやっつけばよいと思う。リリアなど展覧会の会場を確保するのが難しいという声があり、市民の発表の場が少ない。本格的な美術館ができるのであれば、アトリアが市民に使いやすく、素人の方でも作品が発表できる場になっていけば、市民の創造を育む身近なものになると考える。
- (委員) 美術館とアトリアの連携と言っても、別々の活動計画を立てて別々に動いていたら、なかなか連携はうまくいかない。美術館のほうにアトリアの企画室も入って、一緒になってやっていく形が良いのではないかと。  
「川口の美」はローカルな話であるが、それにプラスして、「市民・アーティスト・匠の感性を刺激する」ために、「優れた芸術作品、多様な視点に基づく新たな表現」を対象とするのであれば、インターナショナルでも良いと思っている。ローカルと、それを刺激するインターナショナルな企画双方をやっていく。ローカルにあまり固執すると、田舎くさい美術館になるかもしれない。しかも「川口の美」に関して、「今つくられているもの」と「伝統的につくられているもの」がある。また、工芸的、アルチザンの(職人的)なものやアーティストティックなものとのどのような骨格で結んでいくかというのが問われる。しかも、東京の美術館の真似をしても仕方がないので、「川口の」という形でローカルな部分を売りにしていかないといけない。ローカルだけではなくて、インターナショナルな感性、先ほどご発言されたようなフランスの彫刻家を川口との関係で取り入れるというのもよいと思う。
- (会長) 他の美術館と比べると、川口に特化したような形にせざるを得ない。それだけでは成り立たないということも承知していて、それで「市民・アーティスト・匠の感性を刺激する作品」がここに入っているのだと思う。
- (委員) 役割分担については全体として良い形で整理をしていただいた。なお、「川口の美」を創造する若手作家を支援するとあるが、アトリアでは新鋭作家展を開催しており、アトリアの職員が頑張っ若手を見つけ出して、良い展覧会を毎年開催している。アトリアのそういう事業を新美術館に移すという考えなのかどうか確認し

たい。

ローカルとインターナショナルという話があったが、その通りだ  
と思う。具体的な提案として、例えば、東京の美術館でやるような  
インターナショナルなことをやっても仕方がないので、今どきは  
ローカルレベルでの国際交流ができる時代であるから、川口市の  
姉妹都市、あるいは川口に住んでいる外国の方の国の美術館で、  
川口に近いイメージの都市やその街の美術館同士で交流し、ロー  
カルな良さを生かしつつインターナショナルなイベントを仕掛けて  
はどうか。

若手作家を支援するという事業をどちらに振り分けるのか、気にな  
っている。審議会としては事務局から出てきた文章を最終的に  
認めるか認めないかということになるので、新美術館のほうに書  
いてしまってよいのか確認したい。

(会長) これは美術館とアトリアの2つの活動を連携したいという考えで  
あり、組織としては1つにするのか、連携するのか、どちらかに重  
きを置くかということになる。おそらく2つの施設運営を同時並  
行的にやっていく必要があり、バラバラにやっていたはだめだど  
うことは委員の誰もが思っているが、運営体制について今ここ  
で議論を絞ることはできない。

## ②川口市美術館の位置づけ及び事業活動（案）

(委員) 川口だからこそできる作品もある。様々な職人が住んでおり、な  
かでも川口の金属加工技術は作品を作るのに都合が良い。そうい  
う職人の方々と作家とのコーディネーションも大事なことである。  
「市民のための」という言葉がよく先行するが、市民を優先すると  
若手の作家が発表する場がなくなってしまうという意見がある。  
発表の場所を確保するため抽選に並ぶが、一生懸命作品を作っ  
ている人は抽選に並ぶ暇がない。「市民のための」ということをどう  
位置づけるか、他の街でも議論になったことがある。  
プロと市民の交流という点でいうと、アトリアのアーティスト・  
イン・スクールは子どもたちも良いプロセスを経験し、若い作家  
も良い作品を出しているという一挙両得のところがある。  
アトリアやメディアセブン、旧田中家住宅など、展示や市民向け  
のプログラムを展開してきた施設が複数ある。施設とその活動を  
整理すると、新美術館で備えるべき機能が見えてくるのではない  
か。既存の資源を活用しながら様々な事業を展開する中枢機能を、  
新美術館が担うという全体像が見えるとよいのではないか。

(委員) 概念的な話になるが、「アート」という言葉をどのように理解していくかが大事ではないか。今日、この言葉は日常的に用いられているが、語源的には、それはラテン語の「アルス」から来ており、ギリシア語の「テクネ」と同義である。つまり、「アート」という言葉には、元来「テクネ」、即ち技術という意味合いがあったことがわかる。ここで想起したいのは、日常生活の便利さ、有用性、効率を上げていくために用いる技術とは異なり、芸術作品を成り立たせている技術は、人間が精神活動を通して世界に能動的に働きかけて、世界を知る、組み変えていくために使う技術であるということだ。そのような技術としての特性が「アート」の根本にはあるということを考えてみると、川口のさまざまな、それぞれ技術を駆使した伝統工芸などを美術館で考えていこうとするときに、いま一度、語源を意識し、「アルス」という言葉をキーワード化することもできると思う。芸術は本来、生活と対立しあう概念だが、本質的な意味での技術＝アートを考えることで、芸術と生活領域がうまく接続すると思う。

(会長) お話はわかるが、どういう風に変えたいか。

(委員) 例えば、キーワードとして「アルス」という言葉を啓蒙的に使ってはどうか。「アート」という言葉が本来何だったのか考える場としての美術館という発想もあると思う。

(委員) それは西洋的な考え方であり、その観念が日本に入ってきたのは明治時代以降である。日本の美というのはもっと包括的なもので、日本の伝統的なものと、西洋の観念は対立すると思う。これから問われているものは、どちらかというとならぶ日本的な包括性のあるもので、日本の人工物というのは、職人さんも自分の作品は自然以下であるという謙虚な姿勢でつくられているのではないかと思う。西洋の場合は人工物のほうが自然より上という観念のため、これは伝統的精神として亀裂しているところだと思う。

(会長) 議論が分かれるところである。この場では「川口の美」に絞ってご意見をうかがいたい。

(アドバイザー) 先ほどのご発言はファインアート、芸術としてのアートという部分と、広義のアートを分けるべきであるというような視点だと思う。これをアトリアと新美術館で考えてみれば、広義の市民が楽しむ部分やテクニカルな部分をアトリアにお任せして、そうではない美術品、芸術作品は、川口であろうがインターナショナルであろうが新美術館で取り上げると住み分けていく方向に考えていくと整理しやすいのではないかと思う。資料2の下の「育む」はアトリアで一生懸命やっていた事業だと

思うので、それはアトリアで継続してやってはどうか。若手支援に関してもアトリアが長くやってきているので教育的事業はアトリアとし、川口的美を追求するような展覧会は新美術館で行うのが現実的な考え方であると思う。

資料2の事業活動はありとあらゆることが網羅されており、この中でも美術館でやるべきことを整理していく必要があるのではないか。大まかなコンセプトはこれで良いと思う。

(委員) アトリアとの模式図で、「連携・協力」という言葉があいまいだろうと懸念されるご意見があったが、アトリアとの位置づけをはっきりするためには、アトリアと川口市美術館があるのではなくて、1つの川口市の美術館と考えたほうがよい。その中の機能をアトリアと新美術館で担っていく部分を分ける。アドバイザーのご発言のように、収集・保存、調査・研究、展示・公開、このあたりの機能は新美術館で担い、育む機能はアトリアで継続的にやってもらう。機能をアトリアと新美術館で分け、全体が一体となって新しい美術館ができるとアピールしたほうがよいのではないかと。「連携・協力」というあいまいな表現ではなくて、機能分担していく、新たな機能を追加して、川口市の新しい美術館ができる、とアピールしたほうがよい。

(会長) 展開する事業の柱は「親しむ」「育む」「創造・発信する」の3つで、大枠としては特に問題はないか。

(委員) 言葉尻のことだが、「親しむ」という言葉は非常に穏やかな印象がある。本来アートは刺激を受け、ショックを受けるというニュアンスがある。「親しむ」というのはよくわかり、内容はこれで良いが、もっと世界やアーティストから刺激を受けるといふ、何か良い言葉がないかと考えている。

(会長) 一般層が市民という前提があるから「親しむ」になっているのだろう。

(委員) そうすると、他所の美術館と一緒にしてしまうのではないかと。

(会長) 使命からとってきているのだろう。3つの使命はいずれも市民という前提で書いたものだが、これで良いか。

(委員) 言葉が見つからないが、美術館はプロフェッショナルなイメージ、アトリアは教育、生涯学習など市民が参加できる、広く開かれたイメージの位置づけかと思う。

(会長) みなさんそういう形で捉えていると思う。

(委員) 先ほどご発言されたように、アトリアが山門、美術館が奥之院であり、本殿であり、アート山というイメージで捉えられると思う。

資料のアトリアのタイトル「誰もが気軽にアートと触れあえる、アートへの入口」は大変良いと思う。

(委員) 参考までに、参考事例の中では高崎市が3つの館を持っている。私は詳細に調査したわけではないが、実際に行ってみて高崎市美術館はどちらかというと企画展、いわゆる美術館的なことをやる施設で、シティギャラリーは市役所のすぐそばにあり、どちらかというと市民活動の展覧会をやっているような印象を受けた。アトリアが市民活動支援、アートの入口、川口市美術館が企画展、プロフェッショナル向けの施設なのではないかと感じた。資料をどういうふうにとまとめるかというのがあがるが、基本的には事務局の資料をベースにさせていただいて、例えば、先ほどアドバイザーからご発言があったように、3つの事業の柱のうち、「育む」を小さくする、あるいは「親しむ」「創造する」を太字で囲んで、「育む」がアトリアと強い連携があるというイメージの図にしてはどうか。1つのコメントとして検討材料にしてくれればよく、あとは事務局にお任せする。基本的にはよくまとめられている。

(委員) 先ほど申し上げたように、アトリアや他の施設とのマトリクスを作っていただくと、機能を整理しやすいのではないかと思います。それにより、新美術館は中枢として大きなマネジメントを担うということが納得しやすくなるのではないかと。たとえば、旧田中家住宅では、盆栽と鉄による若手作家の作品展が開かれた。とても興味深く、川口だからできる企画であったかもしれない。新美術館が包括的にとりまとめていくことで、豊かな川口の文化資源がみえてくる。

(会長) 市内の施設を直接入れ込むかどうかは別として、事業活動の中にそういうものを盛り込んでいくことは可能と思う。それができるかどうか事務局で検討して欲しい。川口市美術館のコンセプトの中に入れるとなると、難しいかもしれない。

(委員) 川口は非常にたくさんの文化資源を持っているので、市美術館が中枢として機能することを示すことで、それらをうまく活用できるという説明ができる。

(委員) 一つ確認するが、3. 創造・発信する事業の①基本的な考え方の3つ目に「地域活性化に貢献する」という文言がある。「地域活性化」という中には「産業振興」というイメージも含まれているという理解でよいか。

(事務局) 「アートを通じて人々の交流を促進し、地域活性化に貢献する。」の文言を今回追加させていただいた。第2回審議会で頂戴したご意見を踏まえて、「産業」とは書いていないが、新たに追加した文言である。

(アドバイザー) 「地域・経済活性化」としてはどうか。

(会長) 「経済」という言葉を入れると限定的に捉えられるので、むしろ産業のほうがよいと思うが。

(事務局) これまでいただいたご意見を反映し、参考資料2では川口の文化資源をまとめた。この中で先ほどご意見を頂戴した2ページのg. 自然・景観○その他景観に「安行の植木」を表記している。また、i. 文化・社会教育施設に「郷土資料館」や「文化財センター」としており、ここに記載はないが、考え方としては旧田中家住宅なども文化資源と考えている。

a. 別表1の県指定ゆかりの偉人、別表2の「川口の匠」展、これはアトリアで長く開催していた事業を整理したもので、これ以外も含めて今後は整理していく必要があると考えている。

また、ご指摘のあったマトリクスで活動や機能を整理するというのは文化資源などを十分把握しながら検討していきたい。資料2の一部文言については今後修正してお示しすることとし、一端、こちらでご承認いただきたい。

(会長) 基本的にはこれをベースに、事務局で一部修正して提出することで了解いただきたい。

### 議題(3) その他

(事務局) 本日は、委員より頂戴した資料を配布したが、これに関し、ご説明をお願いしたい。

(委員) 私は18館のうち半分も行っていないが、1回目の審議会の時に「撮影ポイントがあればもっと発信してもらえる」と発言したので、いくつかの館を回り、撮影ポイントの状況をまとめた。これ以外でもいくつか見た中では、その企画展や施設の判断によると思われる。大きくパネルを用意して写真撮影できる館もある。先日の東山魁夷展では最後に大きなパネルがあり、来る方が年配の方が多いというのがあったのかもしれないが、それほど積極的な扱いはなかった。

2つ目の資料は、ご覧になった方もいるかもしれないが日経新聞の記事を紹介したものである。富山県美術館では屋上にトランポリンのような遊具を設置しており、休館日でも市民が訪れるよう



工夫している。金沢 21 世紀美術館も十和田市現代美術館も体験型の作品を活用している。何かしらプラスアルファがあれば面白いと思う。

また、障害者への配慮として、法律の改正もあって、触れる作品展示など、それぞれが取り組んでいる。

新潟の越後妻有トリエンナーレを見てきた。先ほど多様性、外国の方への対応という話もあったが、海外の財団による助成も活用しながら作家を誘致するなどしている。それにより海外でも情報発信してもらえるので、訪日客の獲得に結びついている。いずれも、まちおこしの大きな推進力になっており、こうした取り組みも事業展開の参考になると考える。

(事務局) 今回意見のあった川口市美術館めざす姿(案)について、

- ・アトリアとの機能分担の修正
- ・事業の柱の文言修正
- ・アート領域の修正

を行い、今後提示したい。

次回の議事としては、3. 展開する事業活動(案)において、事業のあり方について掘り下げたもののほか、施設整備のあり方と、管理運営のあり方についても審議いただく予定である。

(委員) 次回は、先ほど委員からご指摘のあった 18 館の収支などについてもご用意いただけたらありがたい。

(事務局) 18 館すべてには回答いただけていない部分もある。整理して対応を検討したい。

#### 4 閉会